

【1】新4K8K衛星放送の視聴可能機器台数 (2021年4月末までの集計値)

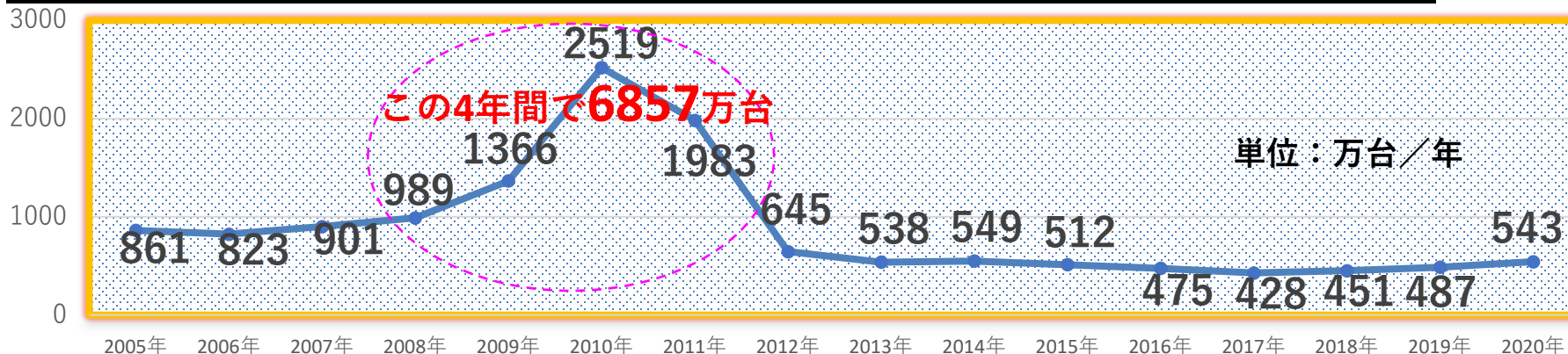
<単位:千台>

分類		4月分	4月末累計
直接受信	① 新チューナー内蔵テレビ	242	5,937
	② 外付け新チューナー	0	255
	③ 新チューナー内蔵録画機器	26	954
CATV受信	④ 新チューナー内蔵STB	54	1,459
合計		322	8,605

(注)・①②③:JEITA発表出荷台数、④:JCTAヒアリングによる設置台数

【2】好調に推移している背景は？

①アナログ放送終了時購入されたテレビが10年を過ぎて、買替時期に



②買替時には、共通したユーザーマインドが顕著となっている

◆放送も動画配信も、もっと大きな画面で視聴をしたい

＜4月のテレビ全体のサイズ別構成比＞

29型以下：14%、30～39型：19%、40～49型：30%、50型以上：37%

⇒ 40型以上が全体の約2/3を占める

◆これから先のことを考えると、やはり“新4K8K衛星放送”に対応したテレビを

③新チューナー内蔵テレビへの参入メーカーも増えて、ラインナップも充実

TVS REGZA(旧東芝映像ソリューション)、三菱電機、シャープ、ピクセラ、ハイセンス、パナソニック、LGエレクトロニクスジャパン、ソニー、船井電機、ORION/ドウシシャ、ドン・キホーテ、アイリスオーヤマ、TCLジャパンエレクトロニクス、maxzen(MOA) の14社が参入 (市場参入順)

- ◆商品の多機能化により、バリエーションが豊富になった一方で、低価格化も進み、お客様の選択肢が格段に増えて来ている
- ◆最近目立つ動きは「有機ELテレビが好調」
= >> 4月は新チューナー内蔵テレビの2割、前年同月比2.7倍

【3】東京オリパラまでに1000万台達成は？

◆1000万台達成までには、あと140万台が必要

オリパラ開始の7月までの3カ月では、47万台/月ペースで、かなり厳しいが、オリパラ開催中の8月までの4カ月では、35万台/月ペースなので、可能性あり！